

地域医療患者支援センター・がん相談支援センターだより

秋田大学医学部附属病院 地域医療患者支援センター・がん相談支援センター 発行

新年のご挨拶

地域医療患者支援センター・がん相談支援センター長
高橋 直人



皆様、あけましておめでとうございます。今年は雪も少なく暮らしやすいお正月でしたが、毎年雪かきに追われるこの時期は、まるで書類がたまる机の上や、ベッドが回らない病棟のようであります。若い職員の皆様にお伝えしたい人生のコツは、雪かきと書類は“たまる前に処理する”です。また、長期入院や社会的入院の増加、地域の医療資源の情報不足等により、ベッドが回らない病棟は“回らなくなる前に支援センターに相談する”であります。早期介入・早期支援が肝要です。

センター業務は、がんや医療費、就労などの相談業務、FAX 紹介やセカンドオピニオンなどの地域連携がございますが、最大の業務は病棟の患者さんの退院支援です。各病棟の担当 MSW 相談員や担当看護師相談員をご存知ですか？ 私、センター長からのお願いは、各病棟の入院患者カンファランスにセンター担当者を積極的に参加させますので、どうぞ受け入れてくださいというものです。退院支援は、意思決定支援であり、入院前の外来通院中からすでに始まっています。介護申請、在宅支援、療養型施設・病院紹介など、それぞれの患者さんのゴールに向かって病棟スタッフの皆さんと共に患者さんを側面から支援したいと考えております。地域医療患者支援センター・がん相談支援センターは「入院前＝外来から始まる退院支援」を合言葉に、健全な病棟運営にご協力いたします。

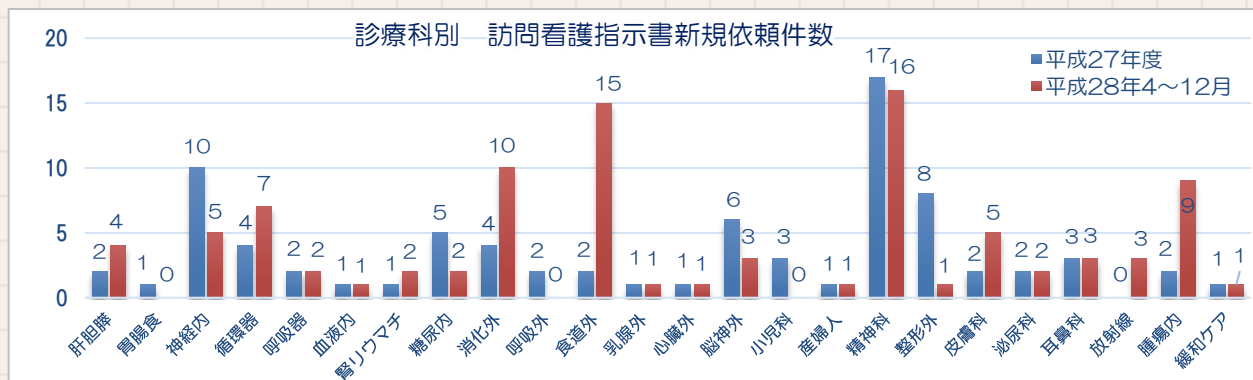
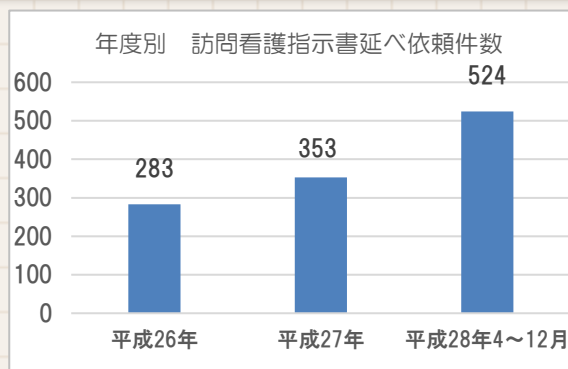
今年もどうぞよろしくお願いいたします。

訪問看護指示書の増加

今年度、訪問看護指示書の依頼件数が大幅に増加しています。

勉強会の実施による知識の習得やカンファランスの実施部署の増加、多職種との連携により、在宅での療養生活を見据えた支援ができるようになった結果と捉えています。

診療科別新規依頼件数では、食道外科・腫瘍内科・消化器外科などが顕著に増加しました。



がん相談員研修会 ～磨こう！就労スキル～

1月14日(土) 当院 2階多目的室にて開催

がん相談員の質の向上を目的とし、秋田県がん診療連携協議会がん患者相談部会の就労支援 WG を中心とした研修会を研修会企画 WG との合同企画にて開催しました。参加者は 22 名でした。

今年度 7 月よりハローワーク秋田による出張相談が当センターを窓口を開始されており、就職支援ナビゲーターの役割や連携に関する紹介がありました。また、がん患者の障害年金申請については大館市立総合病院のがん相談支援センター MSW より、就職支援に役立つ労働法等については社会保険労務士 高橋めぐみ氏より講義を頂き、具体的な対応について学びました。写真は事例検討時のグループワークの様子です。



緩和ケアセンターとの合同研修会

1月17日(火) 当院 2階多目的室にて開催

「あなたならどうする？意思決定不能患者への対応 ～救急現場での事例を通して～」

はじめに、当センター金子 MSW が経験した単身独居ケース（本人が心肺停止で搬送され、意思決定能力を有する家族がいない場合）の支援の実際と今後の課題について事例提供をしました（写真左）。

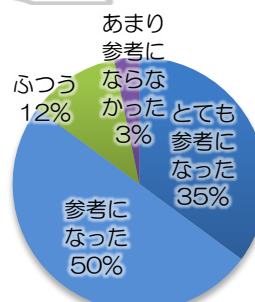
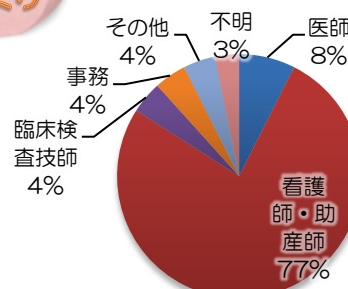


後半は、当センター副センター長 安藤医師が座長となり、シンポジウム形式で意見交換を行いました。救急部 五十嵐季子医師、医療安全管理部 小坂俊光医師、弁護士 豊口祐一氏、秋田東警察署員より、それぞれの立場からプレゼンがあり、ガイドラインや法律等を基に判断した根拠、個々の見解について知る機会を得ました（写真右）。

患者の意思の尊重と、可能な限りの救命を行う為には、家族情報等については警察（生活安全課）等の協力を得る必要があり、病院が対処出来ることとその限界、今後の課題等について共に考えることが出来ました。これを機に、各部署と対応の流れを検討・整備し、院内外との連携を図りながら必要とされる支援をしていきたいと思ひます。

アンケート結果より

参加者数
116 名
アンケート回収数
94 名



参加者の反響が大きく、
困難事例に対するアプローチ
について、このように専門家
や院外関係機関を招いて意見
交換を行う研修“第2弾”を
望む声が多数ありました。